Eiko News Flash

（発行所）
横須賀市船越町
榮光学園新聞部
編集責任者
[redacted]

豫定

二月
四日（水）攝理会
五日　休日
十四日（土）願書受付締切
十六日（月）～十九日　入試開始。筆記試験。身体検査。中学校休。
廿四日（火）合格者発表

新らしき年によせる

幸福なり。」（聖書）

時間は金なりといわれますが、わたくしは、時間は幸福なりといいたいのです。一秒々々がたつにつれて、わたくし達は、幸福を得るか不幸に落ちるか、それは全く時間の使用の如何によるのです。新しい年が始る度毎に、時間の重大さを思い出します。一九五三年の三〇七五八四〇〇秒の中に、一秒も無駄にしないで、わたくし達の幸福を作り上げましょう。

諸君、神のない人の幸福はあり得ない事を忘れないで下さい。神の定め給うた道の他に、幸福への道はありません。今年が、諸君と諸君の父母兄弟姉妹にとって、真の幸福の年となるよう、お祈り致します。

「我等は神によりて勇しく働かん。」（聖書）

偉大な使命に目ざめよ

写眞は「フォス校長」

新年は、本來、成長と進歩とを意味しております。私は、この新しき年が諸君一人々々にとって、かく成長と進歩を意味するものであるように望むものであります。勿論諸君は今年も身體の面では、又知力の面でのびて行く事でありましょう。それは自然のなす所であり、あるいは諸君の勉學のもたらすところであります。

しかしながら、この事のみで足れりとはいたしません。諸君が身體や頭脳の面で伸びても同時に精神の面で伸びてゆくのでなければ、また諸君が將來に期する人として「神を敬い、その道を歩むもの」の理想に少しでも近づくのでなければ、「偉大なる人間」たらんとする感奮に生きつゝ、絶えず歩一歩を進めてゆくのでなければ、この年の意味するものは、進歩にあらずして、退歩なのであります。何故かと申せば、かく生きることとこのことにこそ我々の眞の使命があるからです。すなわち、我々は單に「成人」たらんとするのではなく「聖人」たらんとするからです。

諸君、諸君の偉大な使命にめざめ、かつこれを果すよう努力して下さい。

勇しく働こう！

シュ訓育主任

【論説】「馬子になるな」

一月もあと。残すばかりとなって、いまさら〃おめでとう〃の言葉をかわす者もない。だから、この主題を読んで、〃お正月だから……〃と弁ずるものもあるまい。

馬子にも衣裳、といえば、身分不相応にも、飾りたてればたとえ馬子でも偉そうに見えるものだ、ということをいったもので、言わずと知れたことながら、なんと馬子になる者の増えたことか。目先きの体裁は衣裳で飾ったようでも、その下に、馬の轡をとるに似つかわしいような面がのぞかれる。まったくこれは本当の意味の道化というものである。彼等を見ようと思うならば、まず自分を、あるいは、父兄諸氏におかれても我が子を、純粋な、客観性、冷静な眼をもって眺めてみるが良い。

休みともなれば、その顔は映画の広告そのものゝ如く光り、ゼイタクなセーターに上衣を、ズボンを、よい、派手なマフラーをひっかけるか。ころといい、趣味といえば音楽、映画をかゝさずに鑑賞？、そして僕はジャズが大好きだ、というのが標準である。勿論、これが終戦後の世相の反映、つまりアプレゲールの姿に外ならないが、それでは栄光生たり、指導者たらんとするものゝ資格保持が疑われるというものだ。

一方それほどひどくはなくとも帯飾りをもって至上としたいものは少くない、気取りだといえばハンケチを片手に、ワイシャツがどうのと文句をたらすのをはじめとして、お前のはどうの我のはどうのと談じ合い、はては映画の[illegible]におちるのが関の山。これらが当世中学高校生気質なのである。

かくの如くに飾る必要がどこにある、一体我々は顔をもって今日あり、親のすねをかじらねばならない学生の身分ではないか。

父兄諸氏におかれてもこんな状態についてどう考えておられるのであろう。子供のなすがまゝにし、子供をして我が家の象徴たらしめんとし、衣裳のコンクールを開こうというつもりなのであろうか。かくも着飾ったその下に、軟弱の芽生え、はぐくまれつゝあることが気ずかれずにいるのであろうか。二宮尊徳、リンカーンを思い出そう。たとえ身なりはいやしくとも、心の輝はたえずつもりゆくものなのである。

たしかに栄光の生徒は、きちんとした身なりをしていなければならないはずだ。しかし、片足で虚栄の世界を眺め、片足を校外の虚にぬけだした連中と、真の栄光生とをはっきりと区別する高い見識をもって欲しいものだ。このことにほおかむりし、アバタもエクボでながめる栄光絶対主義者に忠告したいのである。

心の真理をもたぬ、いや修養の足らぬといおう我々に衣食足って礼節を知る、ということとは裏腹されぬばかりか、逆に衣食足って礼節にいたることになりそうなのだ。この意味に於て校服の制定されることは有意義だ。衣服の一律化は衣服の虚栄をなくし、同時に団体としての学校が精神を統合し、これを習得せしむるに役立つからであると思われるからである。

我々は、大きな果物より、小さくともよく熟した果物になりたいものだ。馬子たらぬよう、そして、させぬよう、父兄そして我々は、その態度に反省を加えよう。

榮光二月中に發行

雑誌栄光第八号の編集はほとんど終了し二十七日頃印刷にまわした上三月の一期生の卒業までに発行のもようで、表紙は、クリスマスの絵画展覧会に出品された作品の中からえらばれる。

新購入のピアノ披露など
X'マス祝賀会終る

昨年十二月、二二、二三の両日にかけて恒例のクリスマス祝賀会が催された。

年の暮の忙しいさかりであり、雪の方もたびたび降らぬばかりであったので、父兄の影も少かったが、なごやかな雰気のうちに始終することが出来た。

第一日目は照明の都合により、開会は午後三時からであった。

合唱部の合唱三曲から始って、宗教部朗読、中学一年生の楽団による演奏があったがこの楽団、スタール先生が指揮者で、団員は、ハーモニカ、木琴、笛、バイオリン等を持ち「OLD BLACK JOE」や「SILENT NIGHT」等を合奏した。

クリスマス物語の朗読に続いて、ヘルヴェーク先生の〃クリスマスに就て〃のお話しがあった。

最初に先生は、天には神に光栄、地には御好意の人に平安、と云う言葉を中心に語られ、現在の人々は、〃地には御好意の人に平安〃と云う事のみを考え〃天には神に光栄〃と云う方を忘れ、真のクリスマスの意味について考えないとおっしゃった。

つゞいて、十二月始め買入れたピアノの披露が行われた。お母さんが、RHAPSODIA G-MOLL BRAHMS と MARCIA ALLA TURCA W.A.MOZART の二曲を奏かれた。

ピアノ独奏に続いて、演劇部による、劇「銀の燭台」が演ぜられた。学期末試験終了後から公開まで、十日たらずと云う短期間に、仕上げたもので、演劇部員の努力を称える声が聞かれた。

劇の次は高三の合唱で、一期生最後のクリスマスに全員参加し、ヴオルガの船唄他二曲を力強く合唱した。

高三生徒の合唱の後、再び演劇部の劇、「家をわれらに」が行われた。貧しい靴屋の子供達が、クリスマスプレゼントとして、讃美歌を教えてもらうと云う筋で、彼等の歌声と共に、劇は幕切になった。場外に笑声をひゞかせた。

劇の後、本部主催の写真コンクールの結果発表並びに賞品授与が行われ、七時近く閉会した。

絵画書道展開く
〃栄光〃表紙など

クリスマス学芸会の行われた十二月二十二、三の両日、高校校舎二階で二つの展覧会が開かれた。その一つは図書室の絵画展で、雑誌〃栄光〃の表紙デザイン各種はじめ、デッサン、彫像などの作品が出品されていた。一方、隣りの高一Aの教室では書道展が開かれていたが、絵画展に比べて出品数もすくなく閑散だった。

国語、県高校一齊テストに各学年とも一位を獲得

昨十一月、県下の公私立高校の国語科一齊テストが実施されたが、第三学期当初、その結果が県下高校国語部会より発表された。その結果、前年度と同様に本校は第一、二、三学年とも総合順位に於て第一位を獲得した。

統計によれば、参加校中約五割をしめる女子校（部）が男子校の平均を一%方下まわっているほか全学年を通じて第二学年が相対的に好成績。更に各学年別にみた場合第一位である本校と第二位校との差は、高三では一二・八、高二、六・三、高一、一五・一となって、かなりの差をみせている。

ここで本校につき、特に目につくのは、最高、最低に近づく該當者が少なく、七十点台が最も多いという傾向であり、実力が高く、実力差の少ないということをうらづけしている。いっぽうこれを内容的にみると、特に現代文の読解鑑賞、あるいは、古文、外来語、漢字等の諸分野に於て好成績をみせ、全学年とも全参加校の平均を一―五割がた上まわっており、時に現代文では好い傾向をみせている。（以下別表参照）

参考
一、本表は男子校（部）のみ
一、〇印は参加校全体のもの
一、總参加校は以下のとおりだが（）は男子校を示す。
高三―六三校（四九）
高二―六二校（四八）
高一―六三校（四九）

	K1	K2	K3
人員	124	90	44
最高	98	93	91
最低	54	54	43
平均	78.4	72.8	73.8
○總員	6158	5495	4654
○最高	98	94	99
○最低	0	10	4
○平均	45.7	52.2	46.7

写眞は「銀の燭台」の場面左から[redacted]（K二）、[redacted]（K一）

募集は百八十名に
來年度中学入試

この十六日から愈々二八年度入試の出願受付が開始された。第一日目は二八年度三〇名に対し三七名の出願があり、まず好調なスタートを切った。一方今年の志願者数についてはいろいろな予想があるが、学校側は、二七年度の三二八名とほゞ同数か或は募集人員が十名ふえて一八〇名になった事から二七年度よりやゝ上まわるものとみている。尚一月十六、一七両日だけで在校生の弟一〇名の出願があった。一昨年二一名、昨年は三四名の兄弟がいることから今年はすくなくとも二〇名以上になろう。今年の学科試験は毎日一点ばりで第一日目の二月十六日に行われる。第二日目からは全部面接となっており、試験中休みになるのは第一日目で、中学校のみ。他の日は授業がある。合格発表の行われる運命の日は二月二十四日である。ここで二七年度と二八年度を数字の上から比較すると、施設料が四百円から五百円に、入学金が千円から二千円に上っており、机代千円は変りない。すべての手続きが終って晴れの入学式が行われるのは四月九日。十日から授業が開始される。

◇校長談「勉強の点ではレベルにあり、しっかりした人間になろうと云う意志のある生徒を望む。良い弟を得る為に、在校生及び父兄の協力をお願いする。」

―◇―

なお、編入試験の日程その他は、いろいろな都合があり、まだ決まっていない。

かねてからの希望が実を結んだわけで、最初に、中三[redacted]君の

進適先ず順調か
平均四十七点をあぐ

文部省による進学適性検査は旧年十二月十六日行われたが、その結果が一部判明した。全国、県下の平均等詳細は追って発表されるはずで、現在までに明らかにされたところでは、今回の検査の内容が前回に比べて程度が高かったために、これまでの水準をやゝ下まわるのではないかとみられている。本校では、この検査に四十七名が参加、最高点七十四点、最低点二十六点で、総平均四十七点と一応昨年度全国平均の線を[illegible]つけているが、追って発表される結果のいかんによっては、かなり上位にくい込むことも予想される。總じて現在のところ、結果的にみてかなり良好の成績とみてもさしつかえないだろう。

生徒の聲

不便利な事務館入口

▽事務館の北入口は生徒の出入が禁止されているが、これは、事務館の通り抜けを禁ずる為、学校が設けた規則で、たしか高等学校が、今の校舎に引越す前の事だったと思う。現在、高校生はこの規則の為に、回り道をしなければならず、非常に不便を感じている。も早や高校生にはこの規則は実に不必要だと思われるからして、すみやかに規則を廃止してもらいたい。（高一生）

教員図書室の開放

▽先年の本欄に教員図書室（研究室）の開放を願う一生徒の声が発表されたが、その後全然そのことについて語されないのはどうしたことか。私は先の生徒に代って、全生徒が、教員図書室の開放を念願していることを再びこの欄を通して発表する。先生方の御寛見と生徒諸君の勇気ある世論をあおぐ次第である。（高一生）

創業三十年を誇る
絶對責任の皆様の店
修理部を特設してございます
羽田カバン專門店
横須賀市大瀧町三笠銀座
TEL 一八一八番

全國有名出版社發行
參考書豊富に陳列
島森書店
鎌倉驛前

第三回　愛の運動

目標額二万円を突破
函嶺白百合学園の孤児達に

昨年も、例年にならい、クリスマス愛の募金運動が行なわれた。この運動も、第三回を迎えてますます活気を呈し、目標金額は、昨年の好成績に鑑みて、二万円に増額、募金の対象は、函嶺白百合学園の孤児達であった。

募金は十二月四日に開始されたが、今回は、生徒の募金状況がすこぶる悪く、二万円はおろか、その半分の一万円を辛うじて越えた程度――これに困惑った委員諸君、各部に寄附を依頼するやら、学芸会の当日に父兄に呼掛けるやら、八方奔走の努力空しからず、無事、目標の二万円を突破した。募金総額は二四三三六円六〇銭で、その内訳は、

生徒	一三六三六・六〇円
職員	四〇〇〇・〇〇円
野球部	一〇〇〇・〇〇円
化学部	一〇〇〇・〇〇円
書道部	五〇〇・〇〇円
バレー部	一〇〇・〇〇円
父兄	四〇〇〇・〇〇円
計	二四三三六・六〇円

この他、生徒の中から、鉛筆三百ダース、筆入半ダース、林檎一箱の寄附があり、又、横須賀・鎌倉合唱協会から、酒井先生を通じて、二二五〇円の寄附が寄託された。この内、贈呈金額は、目標額の二万円と、横須賀・鎌倉合唱協会からの二二五〇円、及び、鉛筆、筆入、林檎で、残額四三三六円六〇銭中、旅費と雑費に二五八六円六〇銭を使用、残りの一六五〇円は、次回運動に繰越す事となった。尚、この愛の運動に対して、白百合学園からお礼の手紙が来ているので、その全文を次に記載する。

○

新年の御慶び申上げます。

皆様、御機嫌よう御年を召しました御事とはるかに御喜び申上げます。昨冬クリスマスの折には、御多忙の中を皆様御出まし頂き、多大の御寄附と数々の御土産を頂戴いたしまして、誠に恐縮いたしました。何と御礼申上げてよろしいやら言の葉も存じ上げません。私共も孤児達も何ら御恩返しも出来ませんが、皆様の御上に神様の御恵み豊に在します様御祈り申上げて、せめてもの御恩報じとさせて頂きます。

子供らもクリスマスにうかゞわせて頂きました、御歌など思い出しまして、喜びつゝ御噂申上げて居ります。栄光の皆々様へ、私共から御礼を申出でましたと御伝へ下さいませ。御寒さの折から御身御大切に

一月六日　白百合園

栄光学園殿

横須賀
鎌倉合唱協会殿

英辯論に全国二位
中三・[redacted]君

日本学生アメリカ協会主催、読売新聞社後援の、高松宮杯第四回全国中学校英語弁論大会は、昨年十二月十六、十七の両日にわたり東京、読売ホールにて行われた。本校からは、代表として、中三A組[redacted]君が出場、十六日の予選を軽く通過して、十七日、同じく予選通過の二十校代表と弁舌を競い晴れの全国第二位を獲得した。同君の演説は、"Why be a good citizen"と云う題で、戦後の日本の道徳を批判し、結局どうあるべきかと云う事を、キリスト教的な立場から論じたものである。又、決勝大会の行なわれた十七日、会終了後、第一位を獲得した、東洋英和女学院の[redacted]（東京）三位の[redacted]君らと共に東京会館に、皇太子殿下をお迎えして開かれた、高松宮様レセプションパーティにのぞみ、同じく招待された、マーフィ米大使夫妻らの前に、立太子礼を終えられた殿下を祝福する趣旨の演説を行った。

[redacted]君談　第二位になった時、実は失敗したと思ったが、皆がおめでとうといってくれるから、失敗したとは思いたくない。この演説の目的は、たゞ聴衆に自己意志を発表することだったから、別に新聞でいったような、日米文化交流に尽すとか、毎日コツコツやったということはあたらない。なにはともあれ、シュ先生のおかげだ。

大菩薩冬季合宿　山岳部

中三山岳部員十一名の冬季大菩薩合宿は正月四日より七日まで四日間にわたり、天狗棚、リーダーの高一　　、　　の指導のもとに行われた。

四日横須賀発五時の電車で夜のあける前に出発した一行は、かなり長い横浜線、中央線の旅を経て九時半塩山駅に着いた。連絡よくバスで裂石に行き、そこで弁当を食べた。十三時十分そこを出発し途中三回程休み長兵衛小屋のあった上日川峠を経て、二時四〇分大菩薩館に着いた。着いた時は氷点下四度という思いの他の寒さに驚かされた。

五日はミサが行われた。まだ雪が降って居なかったので予定を変更し、九時半出発、石丸峠から同峠に向い十二時三十五分、小金沢山頂上に着いた。この辺の屋根はかなり雪の残って居る所もあって、頂上ではグリセードの練習も出来た。帰途につく頃から雪が降り始め、一行を喜ばせた。夜はいよいよ本降りとなった。

六日朝、ミサが行われた。雪はやんで居たが二十糎ちかくの積雪があった。十時七分出発し、館の裏手より大菩薩嶺に向った。嶺に近ずくにつれて風が激しくなり嶺上の雪を吹き散らし我々に吹きつけたので、ヤツケの上からでも痛い程だった。嶺から峠への縦走は登って来る時以上の激しさで、一歩一歩踏みしめて前進した。大菩薩峠へ来て弁当を食べ、輪樏で歩く練習をして三時二十分館に向った。夜はエネ大会で、モチ入りのオシルコをすゝりチョコレートをほおばって歌を歌ったり話等をして楽しく一夜を過した。

七日、帰る日だが前日行かれなかった天狗棚へ午前中に行く為九時十分館を出発し、新峠へ向いそこで小休し天狗棚で写真をとったりして館にすべり降りた。後昼食を館で食べ、弁当をつめて、二時五五分下山の為館を出発した。一面灰色と化し裂石へ来るともうかなり雪が降ってきたが、あたりの景色は好天気の時と違い又格別だった。

「期待もてる下級生」
[redacted]・[redacted]好演

『歌を我等に』

「クリスマスの家庭的集い」に相応しく、楽しい公演であった。物語りは靴屋のヨハーノとその八人の子供達が歌を歌ってクリスマスの夜を祝っている。とお金持の紳士がやかましいと飛び込んで来る。出された札束に目がくらんだヨハーノは子供達に歌を禁ずるが、結局、楽しみを金で束縛されるのは間違っていると、金をたたき返して皆唱々と歌い騒ぐ。

この劇の主役たるヨハーノ（[redacted]）は最初の内は調子が出ず、子供達との愛情がピンと来なかったが、後半、金か歌かで悩む辺りから、自分の誤りを悟るところの心理的変化を巧く出していた。

金持ちの紳士（[redacted]）はやゝ動き過ぎの感があり他との調和がとれず残念であったが永く舞台を遠ざかっていた事を考え合わせると止むを得ない。次の機会に期待する。長女イレーナ（[redacted]）もの役は苦手か、「逐一」などで見せた演技は影をひそめていた。

上級生がモタついていた感があったのにひきかえ、この劇を引張って行ったのが、下級生諸君の好演である。少々荒けずりではあるが、物怖じせず、元気よく飛び廻り長男フェレンツ（[redacted]）三男ヨハノ（[redacted]）三女マルグリート（[redacted]）を始め皆好演技であった。

全体的に云うと長い劇や多人数が出演する劇は（特に学校劇では）破綻が生じ易い。この劇も「御多分に洩れず」ではあったが、動作の大きいこと、場面の移り変りの激しい事などで、どうやら保っていた。出演者の芸も少しお粗末であったが良い素質のある下級生が多く、将来が期待出来る。

装置について

装置は第一に上手（かみて）と下手（しもて）との調和がとれていない。下手は深みのある舞台であるが、暗いしあまり目を引かない。真中に階段を取付けたのは面白いが上手の舞台は少々芸がない。もっと蝶ぼけさしても良い。それから舞台が一向に靴屋らしくない。ショウ・ウインドウに「クツ」と赤で書いてあるが外の家並みに消され、下に靴を置（誰）いてあってあったが、それが客席からみると靴らしくない。又仕事場にも工夫を要する。

このような場合は、SHOEMAKERとでも英語を使うとか（アルファベットは商業的広告に最も良い文字の由）通りに面した字ではなく、客席に向った字（つまりサカサマの字体でなく）を書いても劇ではおかしくない。ウインドウにも真物の靴を置くとか写実的な仕事台を作るとかすれば引き立つ。

『銀の燭台』

この劇を見てすぐに感じたことは演劇部の成長である。良くこれ迄になったものと思う。

内容はビクトル・ユーゴの名作「レ・ミゼラブル」の一節であり余りに有名であるからここには記さない。

主役の[redacted]、[redacted]両君は、すばらしい演技を示した。社会の底にうごめき苦しむジャン（[redacted]）は社会に対する僻みと恨みと憤りとを舞台に叩き付けていたし、又、それを温い愛情を持って迎える老神父（[redacted]）も実によかった。下僕（[redacted]）は堅実な演技を示したが、欲を云えばもう少し原作に書かれているような性格を強く表わしたかった。

終幕の所で擬音で小鳥の声が聞えるが、雑音が入って耳障り。良い擬音でも買うことである。

耳障りと云えばこの劇は翻訳劇だけに会話の耳障りなところがある。例えば神父にやさしく説かれたジャンが「私はこの言葉を待っていました。」と云うところなどいかにも芝居らしく感じられた。

装置について少々

全体が明るい室内となっていたが、原作にあるような、時代に煤けた、その中にある美しさと清麗さとを持つ味、むずかしい註文になってしまったが、それを幾分でも出してほしかった。あれでは米国の新築簡易教会の如き感じがする。又、燭台がいかにも安物すぎる。燭台くらい、たとえ銀でなくても真物を使ったらどうだろう。

終りに演劇部をこれ迄に指導された本尾先生始め演出の九島先生装置の白水先生の御骨折りに「心から感謝すると共にこの舞台を最後に退部するもようの[redacted]、[redacted]両君に御苦労様と云いたい。

（十二・二三・於講堂K2[redacted]）

のぞき眼鏡

▽一月の或る日、高等学生の某君、帰途、田浦駅（国鉄）で可愛らしい三、四才の女の子に「おとうさん」とまちがえられ、目下人気を博している。真偽の程は確かでないが、立派な青年紳士と自分とまちがえられた本物のお父さんは、そばできさかんに歎いていたとか。

▽最近（といっても昨年の事だが）高校生の長髪問題が、甲府と群馬の或る高校で問題になっている。日く、「長髪はとかくその方に気をとられ、勉強がおろそかになる……。」と。又群馬県の或る高校の先生は、長髪のもの三十名に落第点をつけたとか。

本校の長髪の諸君、校長先生に感謝すべきですぞ。

良書案内

〃読書の為の読書〃

美術書を繙くに当って、諸君は第一にこれを警戒すべきだと思います。

そして幾多の大才によって、現代にもたらされている素晴しき絵画の理解へと「読書が結び付けられ、且つは帰結されん事を希います。美術書は、絵画あっての寄生物であればこそすれ、其の反対ではない事を十分銘記すべきです。

さて此処で、紹介の前に、少し絵画と云うものに触れて見ましょう。

絵画とは現実の克明なる暗示でもなければ、又絵具によって語られる文学でもありません。云って見れば絵具と云う素材によって自然の中に不用意にある詩を創出し体系立てる事なのです。故に画家は技術に練達の士であってもいけません。又徒らに感傷の人であってもいけません。時には哲学者としての思索と時には一介の職人としての困難複雑なる素材の駆使と両者の一体化合したものゝ人格への反映が始めて一ケの芸術家であることを許すのです。

前置きは此の位にして置いて、周囲の美術書なのですが、諸君も既知の如く戦後枚挙に遑なきほど色彩（いろどり）鮮に種々の書籍が新聞其の他の広告欄を日々埋めております。そしてそのほとんどが良書と云って差支えない程良いもの許りです。此の中から選りすぐって幾つかを羅列せよと云われても一寸困ります。それで此れ等を諸君が選出する（と云っても良否ではなく、種類の趣味）目安となる様な事項を左に掲げて置きます。

A、作品と其の作者の製作態度を知る様なもの

一、アルス美術文庫
（古くはダ・ヴィンチから、ブラック迄）各著者の個性ものぞかれて面白い。

一、デュフイの歌、大久保泰著、独特の美文調で綴られ、読んで行くのが惜しい位。

一、エコール・ド・パリ、福島繁太郎著、著者自からの有名人との会見談など興味尽きぬもの。

一、ジョルジュ・ミッシェル著、モンパルノ、熱情画家、モヂリアニをヒーローに。

一、ヴォラール著（小山敬三訳）画商の思い出。
画商ヴォラールの人像を描きつつ印象派頃の巨匠達を浮彫にする名著。

B、時に現代絵画を鑑賞するに当って是非知りたい美術の理論書
多少専門的に偏するきらいもあるのでFにて述べます。

C、絵画を技術的観点より見たるもの
J・G・グリーナー著
画家のテクニック（多少難解なるも古典のテクニックに詳し）

D、良い色刷の多いもの

一、岩波の少年美術館
（色刷は優秀、たゞ色刷の数が少く、写真版の多いことが弊）

一、世界の名画
（全部色刷）

両者共に巻末に平易な美術史のあるのが特によろしい。此れは初心者でも容易に愉しめる。

E、絵画と其の歴史的背景
カナの宴饗、大久保泰著
古式の笑ひ、大久保泰著
よりオーソドックスなもので、世界美術全集等。

F、月刊雑誌
みづえ
アトリエ
美術手帖

では、右の個々に就いて目に止まったものを挙げて見ますと

現代美術に触れ且つは多少の基礎知識を有する人は、みづえ、アトリエ等が読み応えがあるでしょう。又（Bの事項、理論も此れで親しんで下さい）美術手帖を御存知の人も多いでしょうが、初歩向きに、実際の絵画の入門書であると共に鑑賞、やさしい理論書への手引書ともなりましょう。

以上目に止まったものを、少し挙げて見ましたが、要は、実際読むことです。こと美術に限らなくても、濫読する位の勇気と、若さを望みます。読書する中に、はた！と諸君の心の琴線に触れるもの、此れが、真正なる芸術の戸口を探り当てた事であり、真に運命が戸を叩いた？と云へましょう。

（今回は、図画担任の小笠原先生にお願いしました。）

―◇―

特賞に星野君の〃山脈〃
新聞部主催寫眞コンクール展

去る十二月二十二、二十三の両日のクリスマス学芸会当日、高等学校々舎一階の職員室に於て、新聞部主催第二回写真コンクール発表展が開催された。これは生徒の日頃の腕前を発揮する機会をもうけ、同時に学園内の写真熱を高める為に、一昨年のクリスマス以来、恒例として行われる様になったものである。コンクールに出品された作品は四十九点でそのうちの入選作品として次の七点が決定し、佳作以外には賞状が又各入選作品には、新聞部から副賞として、写真用額ぶちが、二十三日の高校生の為のクリスマス学芸会当日、学園長の手から授与された。

校長賞
山脈（やまなみ）
出品者　高一B　[redacted]

一位
地引をする男女
出品者　高一A　[redacted]

二位
夕暮の海
出品者　高一A　[redacted]

三位
一碧湖スケッチ
出品者　高一B　[redacted]

佳作（三点）
島の夕焼
出品者　高二C　[redacted]
オヤジの力走
出品者　高一C　[redacted]
ポートレート
出品者　高一A　[redacted]

参加点数は、高等学校、中学校を比較すると四十二点と七点で高等学校の方が圧倒的に多く、学年別に見ると高一が三十六点で全体の約八割をしめている。又七点の入選作品中六点迄が高一の生徒の出品作品であることも注目に値する。

尚この紙上をもって、審査員をして下さった吉野正二先生、本尾篤先生、熊野忠孝先生方に心から感謝の意を表し、今後も増々本学園の写真界発展の為に御尽力下さることをお願い致す次第である。

演劇部員募集

研究題目	演技、演出、舞臺美術 並びに脚本製作
資格	中三と高一の生徒
申込先	本尾・九島・白水先生
期限	二月末日

田浦警察署入口角

愛隣堂時計店

カメラと寫材

D.P.Eの御用は
技術と仕上の良い
當店へ
マスダ寫眞材料店
船越町1の47（中央商店街入口）